

第1章 豊中市の概要

<位置>

豊中市は、大阪府の中央部の北側、神崎川を隔て大阪市の北に位置し、東は吹田市、西は尼崎市、伊丹市、北は池田市、箕面市に接しています。緯度経度は、東経135度26分28秒～30分31秒、北緯34度43分51秒～49分30秒の間に位置し、標高は、海拔で0mから133.7mになります。市域は東西6.0km、南北10.3kmで、面積は36.60km²です。

<地形・地質>

地形は、北東の千里丘陵部、中央の豊中台地部、西・南の低地部からなります。千里丘陵は箕面山脈の断層崖下に半円形状に南に開き、海拔134mの新千里北町から大阪湾に向かってゆるく傾斜しています。地質は古期洪積層で、大阪層群と呼ばれる主に海成砂れきと粘土の互層からできています。その西縁部に分布する標高50mから20mにゆるく傾斜した新期洪積層の段丘が豊中台地と呼ばれ、市街地の中心になっています。

<気候>

気候は、瀬戸内海型に属しており、温和・少雨です。平成30年（2018年）の平均気温は、16.8℃、年間降水量は1,683.5mmとなっています。

（気象庁の過去の気象データより）

<人口>

人口は、昭和30年（1955年）1月の庄内町編入以降、昭和30年代の高度成長期を通じて、庄内地域の急速な市街地化や千里地域でのニュータウン建設等により、人口急増を続けてきました。

しかし、昭和47年（1972年）頃を境に、社会増が自然増を下回るようになり、人口は昭和62年（1987年）の417,182人を最高に、その後は減少傾向で、平成27年（2015年）の人口は395,479人となっています。（平成27年10月1日の国勢調査結果より）なお、平成31年（2019年）4月1日現在の推計人口は、398,479人となっています。

<土地利用>

土地利用状況について、昭和31年（1956年）と平成27年（2015年）を比較し60年間の推移を見ると、市街地面積が20.7%から49.5%に、普通緑地^{*}が5.4%から14.8%に増加したのに対し、二次的な自然環境として保全されてきた農地、山林及び水面は72.9%から5.6%に減少しました。

（都市計画基礎調査「土地利用現況調査」より）

地域別に見ると中・北部は、明治43年（1910年）の電鉄敷設以来、良好な住宅地として発展してきましたが、近年になって住宅建設が進むなかで、丘陵・台地部にみられた里山や平地林でのマンション建設、ミニ開発、ため池の転用等が行われています。南部は昭和30年代の高度成長期に急速に市街地化されましたが、大阪市内の工業地帯の延長としての性格と、大都市近郊住宅地としての性格を合わせもった地域として形成されており、主に水田地域の転用によるものです。

一方、市内には航空機が離着陸する大阪国際空港や、中国自動車道、名神高速道路、阪神高速道路などの幹線道路が縦横にはりめぐらされています。

<産業>

市内の事業所総数は、昭和56年（1981年）には16,100か所あり、平成3年（1991年）の16,831か所までは増加の傾向にありましたが、平成8年（1996年）に16,444か所と減少に転じ、平成28年（2016年）では13,044か所とさらに減少しています。

平成28年（2016年）の産業別の事業所数を見ますと、第1次産業で11か所（0.08%）、第2次産業で2,064か所（15.8%）、第3次産業で10,969か所（84.1%）となっています。

（平成28年6月1日実施の経済センサスより）

※ 普通緑地には、公園、緑地以外に、運動場・遊園地、社寺敷地、公開庭園、学校、墓地を含む。